

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年1月29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100660		
法人名	社会福祉法人 共助会		
事業所名	グループホーム畑賀時計台		
所在地	広島市安芸区畑賀2丁目23番33号 (電話) 082-820-6190		
自己評価作成日	令和1年12月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3490100660-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和2年1月29日(水)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・家庭的な雰囲気があり、利用者様が落ち着いて過ごせる環境が整っている。</p> <p>・認知予防の為、毎日、体を鍛えたり脳を活性化するようなレクリエーション活動やクラブ活動を継続し、生活リズムを整えるよう努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム畑賀時計台は、自然に囲まれ、近くには病院、郵便局、小学校、幼稚園、コンビニ、と利便性の良い場所に位置しています。職員は理念（目配り、気配り、心配り）に沿った介護支援を実践している。利用者には今までの暮らしと変わらない家庭的な雰囲気の中で、地域住民の一人として安心して暮らせるよう医療連携、地域の方と連携、年2回の家族交流会ではつながりを深め信頼関係を築いている。一人ひとりの生活歴、性格、思いを把握し、その方らしく生活できるよう人格を尊重されている。毎月職員が、「はすけ通信」を作成し、利用者の様子（利用者の状態の変化、できること、大好きなこと、ユーモアのある場面等）を手紙と写真で家族に知らせ、利用者の1ヶ月の状況を伝えている。職員は研修を重ね、認知症を理解し、より良いケアにレベルアップしたいと取り組んでいる。認知症カフェを通して地域に根づくグループホームにしたいと努力しているグループホームです。</p>

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念があり、理念は事業所内に掲示されている。職員は毎日、理念を唱和している。また、理念に沿った支援が出来ているか職員会議で確認している。	毎日朝礼の申し送りの際、理念(目配り、気配り、心配り)を唱和し、全員が共有し、職員会議でも確認し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	清掃活動や地域の催し物に参加したり、近隣の幼稚園・小学生との交流を年1回ずつおこなったりして、地域の方達と交流している。また、月1回の認知症カフェには多数の住民が参加している。	町内会に入り清掃活動、夏祭り、畑賀祭りに参加している。秋には獅子舞がホームの2階まで来て賑わっている。ボランティアの方が踊り、手品、を披露し、カフェの手伝いに来られ交流している。小学6年生が福祉授業で訪問、2年生は毎年恒例になっている花を持って来られ花壇や玄関に植えられている。幼稚園児の訪問も利用者は喜ばれている。多くの地域の方々との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	月1回、認知症カフェ実施中		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は利用者も参加し、定期的の開催されている。「配薬に関するヒヤリハット」について状況報告を行い、出席者からのアドバイスを受け、事業者で検討し活用する事例があった。	2ヶ月に1回、運営推進会議に利用者、家族、町内会副会長、民生委員、社会福祉協議会会長、介護の集いの方、ボランティアの方、地域包括支援センター職員、施設長、管理者、職員、の出席で開催されている。事業所での活動報告、ヒヤリハット報告等を行い出席者からの意見や提案を聞き、話し合い、運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の案内を市へ提出し、出席を要請するが、まだ市職員の出席はない。 地域包括支援センターへ利用者や職員に関する相談を行い、助言を得て事業所の運営に活用している。	市役所には書類提出に向いたり、電話等で相談をして、助言や指導を得ている等、協力関係を築くように取り組んでいる。市長さんを囲む会に出席、地域包括支援センターへ利用者、職員に関する相談や情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの重要性について、事業所内研修を行っている。ベッドからの転落防止・車椅子からのずり落ち防止などの対策を講じている。やむを得ず身体拘束を行う場合は家族に説明をし、文書にて同意を得ている。(開放制限、3点柵)	身体拘束に繋がらないよう研修を重ね、生活の中で身体拘束に繋がる行為はないか、全員で十分話し合い確認している。3ヶ月に1回身体拘束委員会を開き、それぞれ意見を出し合い身体拘束をしないケアが実践できるよう、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は虐待防止関係の研修に参加したり、ミーティング等で虐待に関する気付きをお互い話し合い、防止に努めている。		

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	職員は権利擁護に関する研修に参加し、学んだ事をミーティング等で話し合ったりして、日頃の利用者様の対応に活かしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、重要事項説明書及び利用契約書、個人情報使用同意書、重度化対応・終末期ケア対応方針等の書面を提示し、ゆっくり丁寧に説明し、理解、納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員と家族の交流、家族間のつながりを深める目的で、年2回開催される「家族交流会」では、家族の意見や要望を聞いている。家族からの苦情は報告書に記載し、対応策を協議している。家族の意見により、職員の写真を掲示し、氏名も紹介している。	家族には毎月、はすけ通信を送り、日々の生活の状況をお知らせしている。年2回の家族交流会では意見や要望を聞き、面会に来られた時には何でも話してもらえるように信頼関係を築いている。本人や家族からのケアに対する要望には、その都度対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に面談を行い、職員の意見を聞き、改善出来るところは改善するよう努めている。	年2回職員との面談を施設長、管理者が1対1で行い話し合い、改善出来る事は改善できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	できるだけ働きやすい環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に一度の法人内勉強会を実施中。その他として、外部研修や施設内勉強会も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホームや小規模多機能の管理者施設長と連携を取り、話し合いの場を設けている。		

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時の初日から、初期アセスメントを実施している。初期計画書を作成し、ご本人の希望を確認し、プランに取り入れサービスに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時の初日から、初期アセスメントを実施している。初期計画書を作成し、ご本人の希望を確認し、プランに取り入れサービスに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期アセスメントをしっかりと実施し、適切なサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と利用者様が、対等な立場で、ともに生活して、アットホームな関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族様と共に、利用者様を支え合って支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの馴染みの関係が途切れないように、面会等も気楽に訪問出来るよう気配りして、対応に心がけている。	訪問はどなたでも自由とされている。家族、友人、遠方の親戚の訪問で利用者は喜ばれている。家族の協力で自宅に帰られる方、散歩、食事、外泊に行かれている。誕生会に訪問される事もあり、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の性格や相性等を把握し、席順やレク活動などにも配慮しながら、利用者同士が関わりを深められるよう、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院等により退居された場合でも、その後の経過を確認したりして、家族様との関係を続け、相談、援助に努めている。		

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話から得られた利用者の意向・要望は、介護日誌や連絡帳に記載し、職員間で共用し、その後、ケアプランに反映している。書くことが好きな利用者には、ボードに献立を書いたり、入浴表の記入を行ってもらい、利用者の要望を実現している。	職員は日々の介護日誌、連絡帳で気づきを共有し、意向の把握をしている。日々の利用者との関わりの中で言葉や行動、表情から思いをくみ取り望まれる事を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過など、しっかりと把握し、ケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	それぞれのADLや心身の違いを把握し、本人様の能力に応じて、それぞれの過ごし方をさせていただいている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者毎に担当職員を決め、ケアプランのモニタリングは担当者と計画作成者が行っている。その後、ケアカンファレンスで他の職員の意見を聞き、プランの見直しを行っている。また、利用者毎の「介護計画の実施状況」を項目ごとに毎日チェックしている。	6ヶ月毎のアセスメントを行い、家族、担当職員、計画作成者、職員の意見を入れながら介護計画が作成されている。介護計画実施状況は詳しく記録され毎日チェックされている。状況変化があればその都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、立てたプランをチェック表に記入し、記録に残し、職員間で共用し、実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々生まれるニーズに対して、施設ないで対応できる事は対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園児との交流や、小学生との交流を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者・家族の要望で、かかりつけ医を決め、各々の医師と連絡を取り対応している。事業所の協力医を主治医とする利用者が多く、協力医は月に1回～2回往診し利用者の健康状態を把握している。	主治医の往診は月に2回、利用者、家族の希望の医療機関があれば、家族対応で受診されている。緊急時は訪問看護師、医師の連携により24時間対応の体制で医療を受ける事ができる。毎週、歯科医による口腔ケアを指導されている。毎週、訪問看護師による体調管理で安心した医療を受けられている。	

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師と随時、連携を図り、利用者様が、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、地域の病院とは蜜に連携を取るよう配慮している。利用者様が入院した際も、再三の面会を行い、病院との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべての事を十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事業所としては、要望があれば看取りを行う方針である。利用者が重度化した場合には、家族の要望を確認し、医師の判断を基本として、支援策を立て対応している。今まで数例の看取り事例がある。	家族、利用者には入居時に事業所のできる対応について説明している。急変、重度化された場合家族の要望を確認し、医師、訪問看護師、職員で話し合い医師の指示を受けて利用者にとって最良の支援をしている。長期入院や専門医に変わられる方もある。今年は2名の看取りをされた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生に備え、マニュアルを完備し、職員が皆で情報を共有している。また急変時や事故発生時は、その都度、臨機応変に対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署立会いの下に、年2回、避難訓練を行い、その内1回は夜間を想定した訓練を行っている。毎年1名以上の職員が市防災訓練所での研修に参加している。地域の防災会議「地域づくり会議」に参加し地域の防災情報を入手している。自然災害時の運用マニュアル作成をし、職員に周知徹底している。	年2回避難訓練を行い、消防署立ち合いの下、初期消火、避難場所、水消火器使用、夜間、日中想定で行われる。地域の防災会議(地域街づくり)に参加している。災害時に備えて水、食料、懐中電灯などの備蓄をしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格尊厳やプライバシーに関する事業所内研修を行っている。利用者の人格を尊重し、利用者の服装の乱れや身だしなみには常に注意し、配慮している。プライバシーに配慮し、利用者の前で他の利用者の個人情報を読まないこと、着替えの際にはドアを閉めることを徹底している。	プライバシーの研修を行い人格の尊重をしている。トイレ、入浴の際は特に気をつけている。なるべく利用者にとって同性での配慮している。接遇に気を付けた言葉かけや対応をしている。	利用者に対して、職員の挨拶や声掛けや人格の尊重等更なる対応の質の向上を目指しておられ、今後、研修や検討会議を重ねられ質を上げられる事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の利用者様や表現が思うように出来ない肩に対し、言葉だけではなく動作や、家族様の情報を汲みながら、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	レクリエーション活動やグループワークなど、大まかな一日の流れは出来ているが、利用者様の個性やその日の体調・精神状態などに配慮しながら、対応している。		

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時から、整髪や洗顔、着たい衣服・帽子など、その人らしいよ装いが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食と夕食は1ヶ月単位で献立が立てられ外部業者から食事が提供されている。月に2回程手作り料理の日を設け、利用者の要望を聞き、鍋料理やバーベキューなどの料理を提供している。年に1~2回外食を楽しむこともある。	昼食、夕食の食事は配食業者から入れている、朝は事業所で作り提供される。年間の行事食も多く行事に合わせた献立になっている。月に2回の手作り料理の日には利用者の好みを聞き、作られて楽しみにされている。おやつ作りではホットケーキも喜ばれ、外食も楽しみな食事になっている。状況によっては食事形態で乱切り、ムース、刻みを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、食事量や水分量をチェックし、1人1人が栄養面や水分不足にならないように、充分配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	大部分の利用者様は、月1~2回の訪問歯科サービスを受け、指導・助言を頂いている。それを参考に、毎食後、口腔ケアに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者毎の排泄状況を把握し、利用者のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。常時オムツ使用の利用者には、日中1回は、トイレに座って排便を促す取り組みを行っている。	排泄チェック表を活用して、声掛けや、トイレ誘導をしている。布パンツ、リハビリパンツ、オムツの使用の方も、日中1回はトイレで自然に排泄できるよう声掛けをしている。プライドを気づけられないよう一人ひとりに合わせた言葉かけで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便状況を把握し、水分補給や出来るだけ座位が取れる方は座位で排泄して頂き、便秘にならない工夫をしている。医療と連携し、排便コントロールがスムーズにいくよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回入浴するようにし、入浴の際には職員と会話をしながら、ゆっくりと時間をかけて楽しんでもらえるよう支援をしている。	入浴は週2回は入られるようにしている。毎日入りたい方には、ご希望があれば柔軟に対応している。入浴を拒否される方には、職員の色々な声掛けやタイミングで入浴できるように支援している。リフト浴、足浴、清拭で対応される事もあり清潔に保てるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1人ひとりの体力や体調に合わせて休憩して頂いている。睡眠時間も、本人様の状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師や訪問看護の指導の下、一人ひとりの服薬情報を介護職員が共有し、事故の無いよう対応している。		

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様個々の趣味や生きがいなどを反映して、食器拭きや、掃除、花の水やりなどのお手伝いをして頂いている。また、クラブ活動や作品作りやカラオケなど、ほぼ毎日楽しく過ごせるよう提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	年間行事の中に、お花見や外食・買い物支援・地域の行事に参加して頂いている。また、家族同行による外食やドライブ等の外出も支援している。	気候、体調を見ながら近くに散歩に出かけられる。花見、外食、買い物に出かけ、年2回はお弁当を持って外で食事をされる。菜園で野菜を作り、水やりや収穫する事、1階から2階に2階から1階に移動する事など気分転換になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様の所持金は、家族か施設管理となっている。生活に必要なものがあれば、家族様に連絡をし、持ってきて頂くか預かり金の中から購入させてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話にやり取りを希望している利用者様には、職員が電話の取次ぎをしたり、手紙の代筆など支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	専任の担当者を配置し、施設内の掃除と庭の花の管理を行い、利用者と一緒にトイレ掃除を行うなど、職員と利用者が協力して施設内を清潔に保つよう取り組んでいる。テーブルやトイレには、季節の花を飾り、利用者の作品の掲示している。	広く明るい、リビングからは回りの景色が見渡され、四季を感じられる。リビングには利用者の作品が飾られ、テーブルには花が飾られている。毎日の清掃や温度・湿度が調節され、ゆったりと過ごせる場となっている。利用者はそれぞれ思い思いに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルや椅子の配置、席順にも気を配り、仲良く楽しく過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	長年使い慣れた家具や置物などを居室において頂いたり、利用者の要望があれば、床に畳を敷くことも可能で、ソファを設置する利用者もある。利用者は家族の写真や手紙を壁に掲示するなど、居心地よく生活できるよう整備している。	家庭で使われていた馴染みの物、テレビ、タンス、家族写真、お花、人形、位牌などが置かれ、家族が工夫された壁掛け等利用者が安心して過ごせる居室支援がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室は個室になっており、プライベートは保たれており、安心して生活できるようになっている。建物内は明るく清潔で、廊下は広く手摺もあり、安全・快適に過ごせる空間になっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム畑賀時計台

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム畑賀時計台

作成日 令和2年1月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	入居者様が穏やかに過ごせるように職員の処遇の質をあげたい。	職員の挨拶・言葉遣い・態度など質の向上を目指す。	笑顔で挨拶・優しい声がけ・意思や人格を尊重した対応を心がける。	12か月
2	13	入居者様に安全且つ安心した生活を送っていただきたい。	職員一人一人の認知症に関する知識、及び介護技術の向上を目指す。	勉強会（法人内・外部）等に積極的に参加し、職員・入居者・ご家族に分かりやすく説明できるようになる。	12か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。